



講演 資料



スケジュール・講師紹介／資料

10:05 講演

高瀬 幸子氏

「ソーシャルワーク見える化の試み」・・・・・・・・・・ 9

11:30 講演終了

講師紹介



高瀬 幸子（たかせ さちこ）

帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 講師

【経 歴】

上智大学文学部社会福祉学科卒業後、順天堂大学医学部附属順天堂医院医療福祉相談室勤務。
上智大学大学院総合人間科学研究科社会福祉学専攻博士後期課程修了、博士（社会福祉学）。
現在、帝京平成大学大学院臨床心理学研究科専任講師。社会福祉士。

【主な著書】

『ソーシャルワーカーによる退院における実践の自己評価』（相川書房/共著/2017）、『在宅高齢者へのソーシャルワーク実践－混合研究法による地域包括支援センターの実践の分析－』（明石書店/単著/2013. 11）、『高齢者のコーピングタイプによる事例分析－ストレスサーに対して積極的に対処しない高齢者へのソーシャルワーカー』（ソーシャルワーク学会誌/単著/2012. 06）、『エコロジカル視点に基づくソーシャルワーク実践の実証的研究：地域包括支援センターにおける一人暮らし高齢者の援助事例の質的分析』（ソーシャルワーク研究/単著/2012. 04）、『地域包括支援センターにおける一人暮らし高齢者の社会的孤立事例へのソーシャルワーク実践：エコロジカル視点による事例分析』（日本の地域福祉/単著/2012. 03）等

ソーシャルワーク見える化の試み

2018年11月23日
東京社会福祉士会 実践研究大会

帝京平成大学
高瀬幸子

1

背景

ソーシャルワーカーとして大切なことに関わっている実感

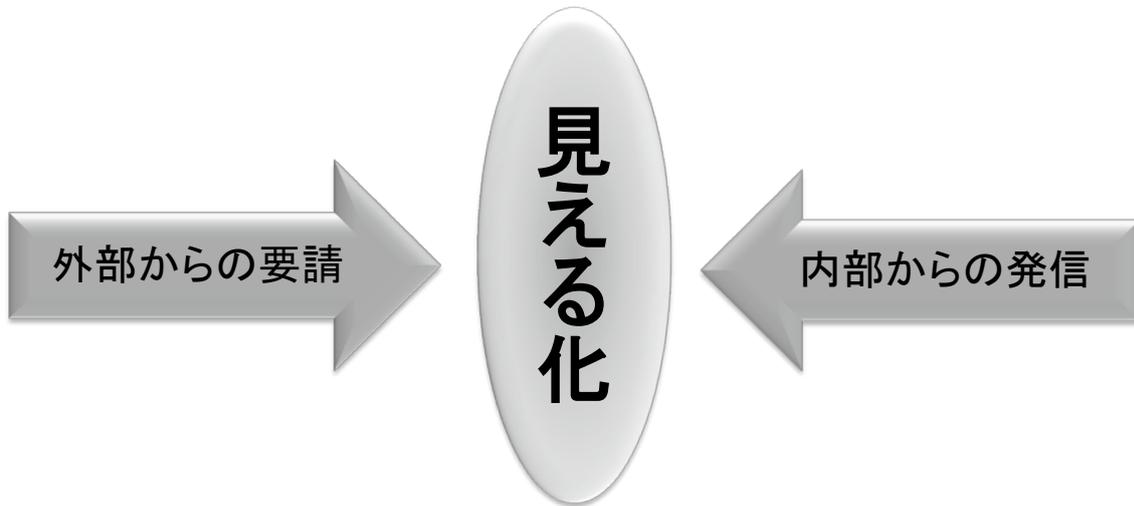


他職種に必ずしも十分に理解されていないもどかしさ

- 専門職の実践たるためには理論的基盤が不可欠
- 言語化 数値化 → 理論化

2

見えにくいソーシャルワーク

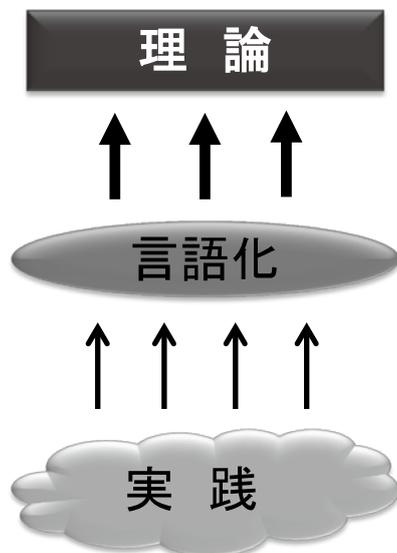


- 見える化の手段 ... 量？ 質？

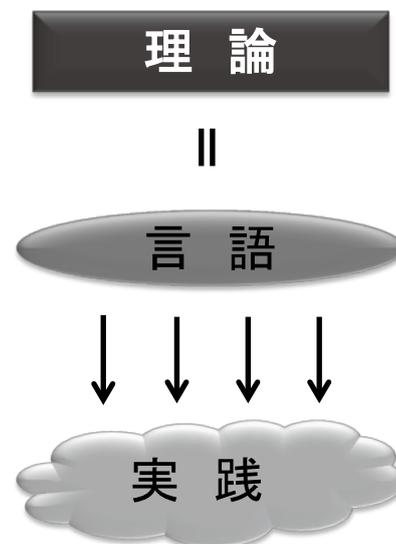
3

質的に「見える化」する

- 帰納的方法



- 演繹的方法



4

ソーシャルワークの理論

視 点
Perspective

- ・システムアプローチ
- ・エコロジカルアプローチ
- ・ストレングスアプローチ

理 論
Theory

- ・自我心理学
→精神力動的アプローチ
- ・学習理論
→認知行動療法的アプローチ

モ デ ル
Model

- ・課題中心アプローチ
- ・解決志向アプローチ

Sheafor & Horejsi (2008) ⁵

ソーシャルワークの理論

理 論
Theory

モ デ ル
Model

視 点
Perspective

6

SW理論を用いた「見える化」の試み

エコロジカル視点



フィールド	地域包括支援センター(5ヶ所)
対 象	事例(22ケース) 社会福祉士の担当するケース 一人暮らし高齢者のケース
デ ー タ	ケース記録 社会福祉士へのインタビュー クライアントへのインタビュー

7

どのような事例を「見える化」するか

・ 質的研究のサンプリング

「研究の目的にてらして最も重要なことがらについて多くを知ることができるような事例」(Patton, 2002)

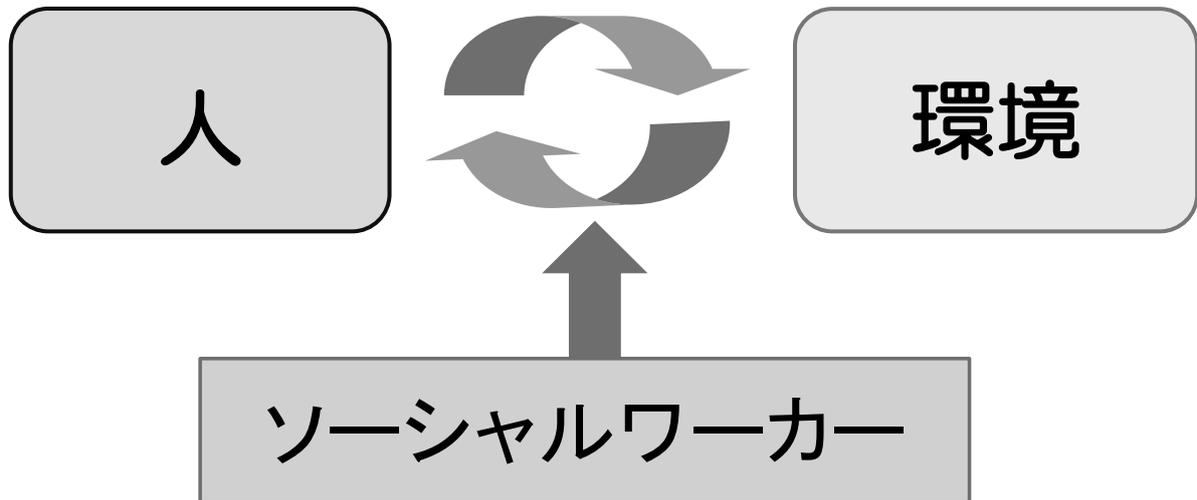
< サンプリングの仕方 >

- ・ 典型事例サンプリング
 - ・ 極端事例、逸脱事例サンプリング
 - ・ 集中的サンプリング
 - ・ 差異最大化サンプリング
 - ・ 同質事例サンプリング
 - ・ 確認事例、反証事例サンプリング
 - ・ 目的的分層化サンプリング
- など

8

「見える化」のための枠組作り

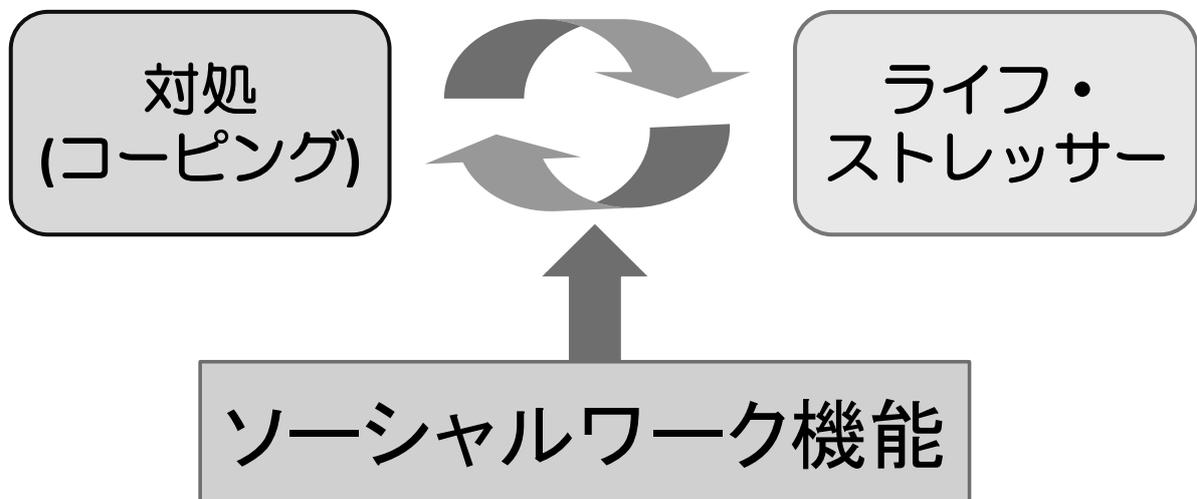
- エコロジカル視点 (Gitterman & Germain, 2008)



9

「見える化」のための枠組作り

- エコロジカル視点 (Gitterman & Germain, 2008)



10

枠組の概念—その1

- ライフ・ストレッサー
 - 人生移行・ライフイベントストレッサー
 - 環境ストレッサー
 - 社会関係ストレッサー

11

枠組の概念—その2

- 対処(コーピング)
 - 問題焦点型コーピング
 - 積極的問題解決
 - 他者への相談
 - 情動焦点型コーピング
 - 気分転換
 - 他者への情動発散
 - 視点転換
 - 回避型コーピング
 - 回避と抑制

12

枠組の概念—その3

• ソーシャルワーク機能

- 精神的支援
- 代弁・権利擁護
- 現物提供・直接介助
- 情報提供・助言
- サービス利用調整
- 見守り
- 関係調整
- 問題認識のうながし

13

事例分析の例

* 事例内容を具体的に示した分析のため、
詳細は当日のスライドをご参照ください

14

「見える化」枠組によって見えたこと1

SWerのとらえるストレスターの多様性

- 「介護保険制度が開始されたとき、あたかも高齢者福祉のニーズはすべて介護保険に移行したかのような錯覚」(渋谷, 2006)があった
- 心身機能の低下は、人生移行・ライフイベントストレスターのなかのごく一部にすぎない

15

「見える化」枠組によって見えたこと2

SWerの有効なはたらきかけ

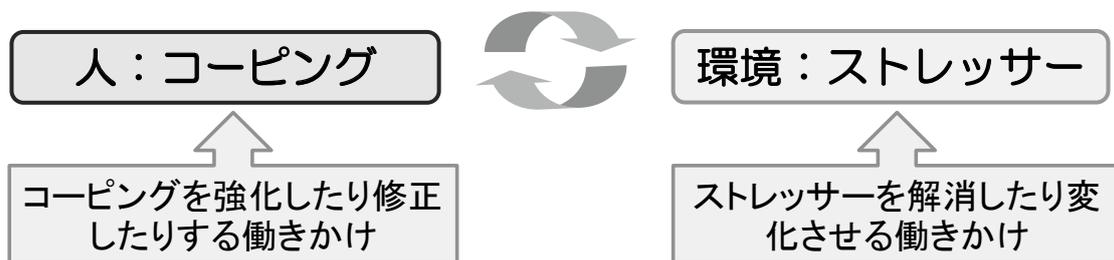
- 「人と環境との適合」がよりよくなったのは、どのようなはたらきかけか
 - 「回避と抑制」から「他者への相談」へ
 - 「気分転換」のための環境調整

16

「見える化」枠組によって見えたこと3

人と環境の相互作用へのはたらきかけ

- コーピングとストレスサーの関係をとらえる
- 人と環境の両方を支援対象とする専門職



17

「見える化」による実践と理論の循環

理論の持つ言語で実践を捉える「見える化」枠組を作る



「見える化」枠組によって実践を捉え直す



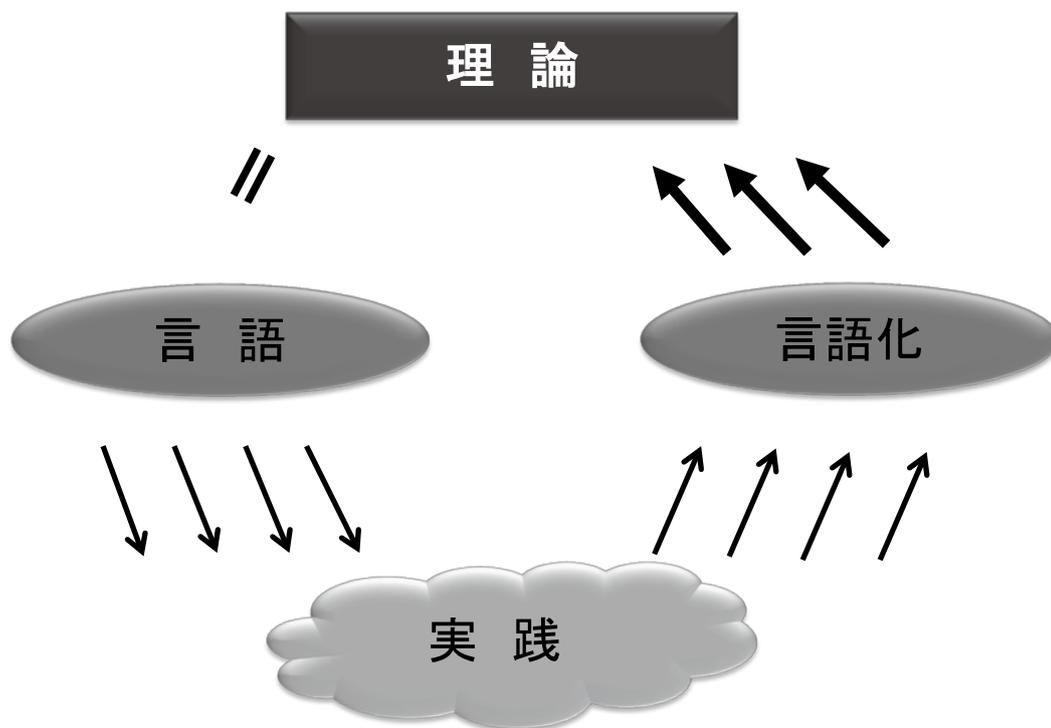
実践の言語化・・・「見える化」



理論の妥当性の確認
実践の現場に合わせた理論の修正

18

「見える化」による実践と理論の循環



19